

令和 4 年 4 月 2 日現在

機関番号：32680

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13173

研究課題名（和文）グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす社会科授業研究

研究課題名（英文）Research on social studies lessons aimed at fostering perspectives and ways of thinking that correspond to a globalized society

研究代表者

佐藤 克士（SATO, Katsushi）

武蔵野大学・教育学部・准教授

研究者番号：10706857

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）： グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす小学校社会科授業について、具体的な授業モデル開発し、その有効性を実験授業の実施とその分析によって明らかにした。

初等段階の子供にグローバル化社会に対応した見方・考え方を育成するために、先行研究のレビューや諸外国の事例分析、第5学年工業単元「世界とつながる自動車工業」の授業モデル開発と授業分析、第6学年国際単元「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」の授業モデル開発と授業分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす小学校社会科授業実践の事例は、まだまだ研究の蓄積が少ないと言ってよいだろう。本研究では、先行研究のレビューや諸外国の事例分析を通じて、本研究に関わる研究の到達点と課題を明らかにするとともに、先行研究で明らかにした課題改善のための具体例として2つの授業モデルを開発し、その有効性について実験授業を通じて示すことができた。

研究成果の概要（英文）： This research has developed a concrete lesson model for elementary social studies lessons that aim to foster perspectives and ways of thinking that correspond to a globalized society. The study have also clarified their effectiveness by conducting experimental lessons and analyzing them.

In order to achieve the purpose of the study, the following steps were conducted in the research, namely (1) reviewing previous research and case analysis of other countries, (2) developing a lesson model and analyzing the 5th grade industrial unit "Automotive industry connected to the world", and (3) developing a lesson model and analyzing the 6th grade international unit "Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and us".

研究分野：社会科教育

キーワード：社会科教育 見方・考え方 グローバル化社会 小学校 授業研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル化は、様々な分野・領域で浸透し、我々の社会を捉える見方を広げ、社会構造に変革をもたらしている。グローバル化とは、一般的に「国家を超える社会現象の拡大化」を意味し、輸送機関の高速化や IT 等のコミュニケーション技術による時間と空間の圧縮からもたらされる現象と捉えられている (Harvey, D. 1999)。今後は一層、時間と空間の圧縮が加速度的に進み、地域間の社会関係や相互関係が世界規模で強まっていくことにより、ローカルな存在を同一化、等質化、標準化させる動きやそれに対抗する動きが生じること等が指摘されている (澤, 2010)。

このようなグローバル化社会において、グローバル化社会に対応した資質・能力を育成するために、社会科ではどのような教育内容を、どのような学習・指導方法によって構成し、展開すればよいのだろうか。また、その成果はどのような評価方法によって明らかにすることができるのだろうか。平成 26 年第 7 期中央教育審議会において、「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造が変化し、現在とは様変わりすることになること」と指摘され、教育目標・内容と学習・指導方法と学習評価の在り方を一体として捉え、新しい時代に相応しい教育の在り方が求められている (文部科学省, 2014)。平成 32 年度から小・中学校において完全実施となる新学習指導要領に向け、研究者や現場教員に対して、グローバル化に対応した新たな教育内容、学習・指導法、評価方法の開発・普及が求められている。一方で、現在、世界が抱える環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な諸問題について持続可能な社会の構築 (開発) という観点から地球規模の諸課題を学際的かつ総合的に解決しようとする資質・能力の育成も求められている (文部科学省, 2013)。現行 (平成 20 年版) の小学校学習指導要領では、21 世紀社会を知識基盤社会またはグローバル化社会と捉え、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を指摘している (文部科学省, 2006) が、実際の小学校社会科教科書では「様々な食べ物や商品が外国から輸入されている」または「日本も諸外国に様々な食べ物や商品を輸出している」程度の理解に留まっており、上述したような地域間の社会関係や相互関係が世界規模で強まっていることを認識させる内容構成とはなっていない。今後一層、グローバル化の進展が予測される中で、子供にグローバル化社会の様相やそのしくみを適切に認識させるとともに、持続可能な社会の構築 (開発) という観点から地球規模の諸課題を学際的かつ総合的に解決しようとする資質・能力を保证する社会科授業の開発は急務である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、初等社会科教育において、グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす単元及び授業モデル開発を行い、その有効性を実験授業の実施とその分析によって明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、以下の手順を採用した。

(1) グローバル化社会に対応した見方・考え方の要素を措定するために、文献研究、先進地域の調査を行う。

(2) グローバル化社会に対応した見方・考え方の要素を組み込んだ単元及び授業モデルの検討を研究協力者との会合を定期的に行う。

(3) 開発した授業モデルの有効性について実験授業を通して検証する。

(4) 授業記録や授業後の総括的評価の結果をもとに、授業分析を行う。

4. 研究成果

本研究の成果を以下の 3 点に整理して報告する。

(1) 先行研究のレビューや諸外国の事例分析

急速に進展するグローバル化に対して小学校社会科はどのように対応すべきなのだろうか。このような問いに対して、近年、わが国の社会科教育研究では、大きく二つの主張が見られる。第一に、わが国の小学校社会科カリキュラムを規定している同心円の拡大法に代わる原理に基づいてカリキュラム並びに教育内容を編成し、初等段階から世界に関する学習を充実させるべきであるというものである。第二に、グローバル化社会の特質やそのしくみを教育内容として取り上げ、それらを政治・経済・文化等の側面から多面的 (または多角的に) 捉えさせる学習を展開すべきであるというものである。前者は世界像形成を主軸とした改革案であり、後者は社会認識形成を主軸とした改革案と読み替えることができる。

前者の世界像形成を主軸とした改革案に関しては、わが国の同心円の拡大法に基づくカリキュラムとは異なる論理、具体的には多核的同心円拡大法という論理でカリキュラムが構成され

ているイングランド初等地理教育の分析を通して、具体的な改革案の方向性を明らかにした。一方、後者の社会認識形成を主軸とした改革案に関しては、教科書記述に基づく社会科授業や先行授業実践の到達点と課題を指摘した上で、その改革案の方向性として、グローバル化社会の実態やそのしくみについて科学的に理解させる際、社会空間の重層性や階層性、空間的プロセスを異なるスケール間の関係性や地理的スケールを視点に捉えさせる重要性を、地理学や社会学等の空間論研究の成果をもとに論じた。

(2) 第5学年工業単元「世界とつながる自動車工業」の授業モデル開発と授業分析

現代社会において生産・流通・消費のあらゆる過程において、グローバル化の様相が顕著にみられる分野の1つである工業に着目するとともに、それに関わる小学校社会科第5学年の工業生産に関わる学習を事例に、グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす第5学年工業単元「世界とつながる自動車工業」の授業モデル(全13時間)を開発した。具体的には、近年の地理学や社会学等の社会空間を研究対象とする空間論研究の成果をもとに、グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす社会科授業構成論を提起し、その授業構成論に基づき、「空間的プロセスを認識する段階」、「社会空間の重層性やスケール間の関係性を認識する段階」、「持続可能な社会を創造する段階」の3つの段階を経て、上記の見方・考え方の育成に寄与する構成とした。

本単元では、通して獲得させたい知識を次のように設定した。

【概念的知識A】: グローバルに展開する多国籍企業(製造業)は、国際競争力を高めるために、世界の政治・経済・社会の変化を踏まえ、国内外において工場の立地調整を行っている。

【概念的知識B】: 企業のグローバル戦略による立地調整は、様々な空間スケール(国民経済や地域経済など)に正負の影響をもたらす。

【概念的知識C】: それぞれの立場が立地調整によってもたらされる負の影響を最小化し、正の影響を最大化するため(持続可能な社会の実現)に、様々な取り組みを行っている。

また、単元終了後の総括的評価の設問として、「日本の自動車会社にとって、タイの工場を自動車を組み立てることの良さは何ですか。次のア～キの中から当てはまるものを全て選び、記号で答えなさい。」「世界にある自動車組み立て工場のなかで、日本の追浜工場は特にどんな役割を担っているといえますか。次のア～オの中からあてはまるものを1つ選び、記号で答えなさい。」「トランプ大統領は、なぜこのようなコメント(新聞記事: トヨタとマツダのアラバマ州新規工場建設及び生産開始の決定に対する歓迎のコメント)を出したと考えられますか。アメリカ合衆国にもたらされる『良い影響』をふまえて理由を書きなさい。」「トヨタの決定(新聞記事: 静岡の工場を東北へ移転させること)は、どのような立場の人にどのような影響が出ると予想されますか。」「トヨタの決定(新聞記事: 静岡の工場を東北へ移転させること)によって生じると予想される『良くない影響』を軽くするためには、あなたは、どのような立場の人が、どのような取り組みを行うのがよいと考えますか。」等を設定し、開発した授業モデルの有効性と実験授業の妥当性について検討した。

(3) 第6学年国際単元「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」の授業モデル開発と授業分析

グローバル化した国際社会において役割が増大している集合体の一つに都市が挙げられる。山本(2016)は、1980年代以降、全世界的な資本主義化の進展により、競争原理を重視する新古典派経済学の市場観がグローバルに適用された結果、都市は世界経済に多大な影響を持つようになったと指摘する。その背景として、グローバルな空間統合のハブをなす少数の世界都市を頂点に、グローバルなスケールで階層的な都市体系が形成され、結節的な中心地の領域統合が図られたことが挙げられる(長尾, 2002)。その結果、吉原(2018)が述べるように、国民国家が成立した近代以降、都市は国家によって中心-周辺の円環構造に閉じられる「社会/国家のなかの都市」だったものが、グローバル化の進展によって、資本活動を背景に多様なネットワークを媒介する拠点として、国民国家を超えてその影響力を及ぼす「社会を越える都市」に再編成されるようになった。このような社会の現状を踏まえると、第6学年の最後に位置付く国際単元のあり方も再考する必要もある。その際に重要となるのは、現代社会を特徴付ける空間の多元性や重層性を前提とした市民的資質の育成であろう。このような問題意識のもと、グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす小学校第6学年国際単元「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」を事例に授業モデル(全11時間)を開発した。具体的には、近年の地理学や社会学における都市研究及びオリンピック論の成果をもとに、グローバル化社会に対応した見方・考え方の育成をめざす社会科授業構成論を提起した。また、提起した授業構成論に基づき、「グローバル・シティにおけるオリンピック開催の要因を経済的な視点から認識する段階」、「オリンピックによる正負の影響を異なるスケール間や立場の違いから認識する段階」、「持続可能な生活空間の実現に向けた都市空間のあり方について提案する段階」という3つの段階を経て、上記の見方・考え方の育成に寄与する構成とした。

本単元では、通して獲得させたい知識を次のように設定した。

【概念的知識A】: グローバル・シティがメガ・イベントであるオリンピック開催を必要とするのは、脱工業化社会における都市戦略に対応した大規模な都市空間の再編がめざされているからである。

【概念的知識 B】: グローバル・シティにおいてオリンピック開催に伴う大規模な都市空間の再編に対抗する動きが生じるのは、オリンピックやそれに伴う都市再開発によりスケールや立場の違いによって正負の影響がもたらされるからである。

【概念的知識 C】: グローバル・シティにおいて、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の両立に向けて合意形成が図られているのは、持続可能な都市づくりがめざされているからである。

【規範的知識】: グローバル・シティにおいてオリンピックを通して持続可能な生活空間を創るためには、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性を両立させる都市政策を行う必要がある。

また、単元終了後の総括的評価の設問として、「オリンピックが世界的に大きな規模の大会となった理由を以下のア～オより 2 つ選び、記号で答えなさい。」「企業がオリンピックに資金を出してスポンサーになることにより、もたらされる『良い影響(メリット)』を答えなさい。」「なぜ五輪スポンサー企業の 1 割が『メリット得られない』と答えたのか。その理由を答えなさい。」「グローバル・シティの特徴としてあてはまるものを次のア～カより 2 つ選び、記号で答えなさい。」「オリンピック開催によりグローバル・シティにもたらされる『良い影響』とは何でしょうか。2 つ答えなさい。」「オリンピック開催によりもたらされる『良くない影響(デメリット)』について、その影響を受ける立場の人々を具体的にあげて 2 つ答えなさい。」「東京 2020 大会のカヌー会場について、どのように変更されたのでしょうか。また、なぜ、計画が変更されたのでしょうか。初めの計画案で想定された『良くない影響』を具体的にあげて説明しなさい。」「引用文『科学・技術の進展によって、世界中のどこに住んでいる人であっても、自分が住んでいる都市でオリンピック・パラリンピックが開催されているような感覚が味わえる時代が来たときに、はたして、オリンピックやパラリンピックは一都市で開催されるのでしょうか。』という問いに対して、あなたはどのように考えますか。」等を設定し、開発した授業モデルの有効性と実験授業の妥当性について検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 佐藤克士・大矢幸久	4. 巻 11
2. 論文標題 わが国の初等段階におけるオリンピック・パラリンピック教育の分析 - 「オリンピック・パラリンピック学習読本」を事例にして -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野教育學論集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤克士	4. 巻 12
2. 論文標題 主権者教育としての小学校社会科防災学習の授業開発 - 第4学年「災害に強いまちづくりを実現するためには」の場合 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武蔵野教育學論集	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤克士	4. 巻 8
2. 論文標題 日本・英国・米国における中等歴史教科書の比較研究 - 戦争に関する学習内容を事例にして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵野教育學論集	6. 最初と最後の頁 103-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 克士, 内川健	4. 巻 2
2. 論文標題 「観光のまなざし」論を組み込んだ社会科観光学習 小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の場合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 サステイナビリティ教育研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤克士, 大矢幸久	4. 巻 68-3
2. 論文標題 小学校社会科産業学習における工業単元の授業改善 イングランド地理テキストブック " NEW KEY GEOGRAPHY Connections(KS3) " を参考にして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新地理	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤克士	4. 巻 7
2. 論文標題 社会認識形成と世界像形成の統合による小学校社会科授業開発研究 第4学年単元「どうする！ゴミ問題」を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵野教育學論集	6. 最初と最後の頁 47 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉水裕也, 佐藤克士, 澁谷友和, 曾川剛志	4. 巻 55
2. 論文標題 社会科におけるまちづくり学習の研究動向と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内川 健, 佐藤 克士	4. 巻 1
2. 論文標題 持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習 イングランド地理教育「単元事例案」を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 サスティナビリティ教育研究	6. 最初と最後の頁 13 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 克士	4. 巻 134
2. 論文標題 小学校社会科はグローバル化にどのように対応すべきか - イングランド地理教育・空間論研究の成果を視点にして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科教育研究	6. 最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 克士・宮崎 猛・内田 稔	4. 巻 6
2. 論文標題 高等学校「公共」を見据えた小学校社会科政治学習 - 第6学年 単元「私たちの政治と暮らし」の場合 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵野教育學論集	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 克士	4. 巻 5
2. 論文標題 わたしの授業構想 第5学年「自然災害を防ぐ(防災)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新学習指導要領と現代的な諸課題 (東京書籍)	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 克士	4. 巻 2
2. 論文標題 地図帳を活用した指導 第5学年「自然災害から暮らしを守る」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新学習指導要領を見すえた 地図帳活用指導事例集 (東京書籍)	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤克士・大矢幸久
2. 発表標題 グローバル化した社会の認識形成をめざす小学校社会科工業学習の授業開発 - 第5学年単元「世界とつながる自動車工業」の場合 -
3. 学会等名 社会系教科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤克士・大矢幸久
2. 発表標題 わが国の初等段階におけるオリンピック・パラリンピック教育の分析 - 「オリンピック・パラリンピック学習読本」を事例にして -
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤克士・大矢幸久
2. 発表標題 リスク社会に対応した資質・能力の育成をめざす小学校社会科防災学習の実践学的検討
3. 学会等名 全国社会科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤克士・大矢幸久
2. 発表標題 グローバル化した都市空間の認識形成をめざす小学校社会科学習の授業実践とその評価 - 第6学年「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」の場合 -
3. 学会等名 社会系教科教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤克士
2. 発表標題 ESD理念の実現をめざす社会科観光学習の授業開発
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤克士, 大矢幸久
2. 発表標題 小学校社会科産業学習における工業単元の授業改善
3. 学会等名 日本地理教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤克士, 澁谷友和, 曾川剛志, 行壽浩司, 吉水裕也
2. 発表標題 近年の自然災害と学校防災・危機管理 - 4 - 「危機社会」における小学校社会科防災学習の授業開発 -
3. 学会等名 日本教育大学協会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤克士, 大矢幸久
2. 発表標題 立地概念の獲得・活用をめざす社会科工業学習の授業開発とその評価 小学校第5学年「日本の自動車工業」の場合
3. 学会等名 日本社会科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤克士, 内川健
2. 発表標題 「観光のまなざし」論を組み込んだ社会科観光学習 小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の場合
3. 学会等名 全国社会科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大矢幸久, 佐藤克士
2. 発表標題 グローバル化した社会の認識形成をめざす小学校社会科工業学習の実践学的検討 評価問題の開発とその分析
3. 学会等名 社会系教科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤克士, 大矢幸久
2. 発表標題 グローバル化した社会の認識形成をめざす小学校社会科工業学習の授業開発 第5学年単元「世界とつながる自動車工業」の場合
3. 学会等名 社会系教科教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 吉水 裕也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 新3観点の学習評価を位置づけた中学校地理授業プラン	

1. 著者名 兵庫教育大学連合大学院・防災教育研究プロジェクトチーム（著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 近年の自然災害と学校防災 2 持続可能な社会をつくる防災・減災、復興教育	

1. 著者名 吉水裕也，大谷誠一，佐藤克士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 149
3. 書名 本当は地理が苦手な先生のための中学社会地理的分野の授業デザイン&実践モデル	

1. 著者名 宮崎 猛，吉田 和義，内田稔，小泉博明，古賀毅，佐藤克士，徳高廣治，西中克之，眞所佳代，宮本静子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 133
3. 書名 社会科教育の創造 基礎・理論・実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------